

令和6年度終始業式挨拶

- 皆さんこんにちは。「今年の夏は10年に1度の暑さとなる」との予測通り、昨年以上に猛暑、酷暑となりました。10月になったというのに、今日30度を超える暑さとなりましたが、朝夕はようやく秋の気配を感じることができるようになってきました。しかし、季節の変わり目、心身面でバランスを崩す人も見受けられます。各人、健康管理には十分注意して下さい。
- さて、『秋』には、“芸術の秋”、“収穫の秋”、“食欲の秋”、“スポーツの秋”など、様々な表現があります。夏目漱石の著書『三四郎』がきっかけとなったと言われている“読書の秋”もその一つです。
- 9月半ば、文化庁が発表した16歳以上を対象とした2023年度の「国語に関する世論調査」の結果では、62.6%の人が1カ月に電子書籍を含めて本を読まないとのことでした。前回2018年度は47.3%でしたので、この5年間で未読者が大幅に増えたことになります。
- 確かに本校でも「スマホやゲーム機などで時間が取られる」「勉強や班活動が忙しく本を読む時間がない」といった理由で、本を読まない、読めないという人が少なからずいるのではないかと思います。ところで、ある評論家が、「日本人はスマホで文脈のない短文や動画・画像の情報を得ることに慣れてしまい、『長文離れ』を起しているのではないかと。『このことは、これからの社会において、益々重要となるコミュニケーション力や情報の真偽を見分ける力などの劣化に繋がっていくのではないかと指摘しています。
- また、『長文離れ』は、皆さんにとっては重要な「大学共通テスト」にも影響してくるのではないかと思います。自分も地歴公民の校外模試にチャレンジしてみましたが、2020年まで行われていた「大学入試センター試験」のクイズのような四択問題とは違い、様々な資料を見ながら読み込まなくてはならず、まさしく「読解力」が試される問題であり、とても疲れました。さらに、皆さんは今後、質的にも量的にも今とは比べようもない資料や論文、テキストなどを読まなければならなくなるでしょう。そこでも「読解力」が試されます。「読解力」は後天的な能力であり、語彙力を増やすこと、多読すること、要約することなどで、その能力を高められると言われています。読書することは、まさにこれから益々重要となる「読解力」を高めるために必要な手段だと思えます。

- 話は変わりますが、今年の元旦に大地震に見舞われた能登半島、今日で10カ月が経ちますが、ようやく復旧の目途がたち始めた最中の、つい10日前には豪雨により川の氾濫や土砂崩れなどさらに大きな被害が出ました。皆さんもその惨状をニュースなどで目にしたことでしょう。テレビでお年寄りが、「失うものはもう何もない。ここまで来たらもう笑うしかありませんよ」あるいは「この世には神も仏もいない」など涙も枯れ果てたように、力なく答えていた表情が忘れられません。
- 大雨の前日、石川県の金沢市である会議がありました。その会議には、能登半島突端の珠洲市にある、石川県立飯田高等学校の角校長先生もいらっしゃいました。角先生から直接、地震直後の学校の被害状況や避難所となった学校の様子などをお聞きしましたが、ニュースなどで知る以上に大変な状況であると実感した次第です。
- 校名が同じということで、元旦の大地震発生後から本校の同窓会や先生方、生徒自治会、書道班などが様々な形で支援をしてきました。また、珠洲市ではないですが、夏休みには本校の生徒もボランティアとして能登半島に行ったようです。そのような支援に対して、本当にありがたく、涙が出るほど嬉しかったと話され、生徒の皆さんにもよろしく伝えてほしいとおっしゃっていました。また、書道班の書道パフォーマンス作品は、今でも生徒廊下に展示してあり、生徒たちは勇気づけられているとも話されていました。今後もそれぞれが出来る範囲で、能登半島の人々に寄り添っていければと思っています。幸いにも石川県の飯田高校では、今回の豪雨による影響は少なく、9月26日に予定通りクラスマッチを行うことができたとのことでした。
- 明後日、本校では避難訓練が予定されています。この夏は、南海トラフ地震発生に対する注意が発令されましたが、そのことも踏まえて、例年以上に緊張感を持って、“もしも”の場合を想定しながら、実施してもらいたいと思います。
- 今年度も後半となりました。特に、3年生にとっては、大学共通テストの出願が終わり、いよいよ受験が動き出したと言えます。今朝の朝日新聞に高校3年生の女子が次のような投稿をしていたので、その終わりの部分を最後に紹介します。

「(前略) 私は今、受験生である。志望校の合格のために必死に勉強している。時々、自分の決断が不安になる。だが、その決断が最後は良かったと思えるものにしたという気持ちがあるからこそ、頑張ることができる。」

以上、終始業式の挨拶とします。